

# 令和3年度宇部市公共交通協議会 第1回会議 会議録

日時：令和3年（2021年）4月21日（水） 10:00～11:15

場所：宇部市役所 4階 委員会室

出席者：17名（欠席者3名）

榊原会長（国立大学法人山口大学大学院）  
木下副会長（宇部市自治会連合会）  
鈴木委員（国立大学法人山口大学大学院）  
大谷委員（宇部市交通局）  
綿部委員（船木鉄道株式会社）  
辻野委員（サンデン交通株式会社、代理者出席）  
中村委員（西日本旅客鉄道株式会社山口支社）  
蔦委員（中国運輸局山口運輸支局）  
中尾委員（山口河川国道事務所宇部国道維持出張所）  
保村委員（山口県宇部土木建築事務所）  
栗栖委員（山口県宇部警察署）  
辻岡委員（宇部交通労働組合、代理者出席）  
伊藤委員（山口県観光スポーツ文化部交通政策課）  
吉原委員（一般社団法人宇部観光コンベンション協会）  
山根委員（宇部市交通局バスモニター）  
萩原委員（国立大学法人山口大学大学院学生）  
村上委員（宇部市総合戦略局）

事務局：3名

交通政策推進グループ 羽根グループリーダー、成瀬チーフ、金子

次第：1 会長あいさつ

2 議事

- (1) 宇部市公共交通協議会設置要綱の一部改正について
- (2) 令和2年度決算及び監査結果報告
- (3) 令和3年度事業計画及び予算（案）
- (4) 宇部市地域公共交通網形成計画の振り返り（意見交換）

3 その他

## 1 会長あいさつ

## 2 議事

### (1) 宇部市公共交通協議会設置要綱の一部改正について

事務局から、宇部市公共交通協議会設置要綱の一部改正の理由等について説明を行った。

(質問、意見なし)

### (2) 令和2年度決算及び監査結果報告

事務局及び監査委員から、令和2年度収支決算及び監査報告を行い承認された。

(質問、意見なし)

### (3) 令和3年度事業計画及び予算(案)

事務局から、令和3年度事業計画と予算(案)について説明を行い承認された。質疑については、以下のとおり。

#### 【委員】

地域公共交通計画策定支援業務委託における公募型プロポーザルに係る選定委員のメンバー構成はどうなっているのか。

#### 【事務局】

総合戦略局長、総合戦略局次長、交通政策推進グループリーダー、都市計画課長、市民活動課長の5名である。

### (4) 宇部市地域公共交通網形成計画の振り返り(意見交換)

#### 【事務局】

事務局から、資料の説明を行った。

#### 【会長】

補足だが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があるので、公共交通の利用状況は悪いと考えられる。そのため、資料では令和元年度の状況を掲載している。

網形成計画における事業については、概ね実施できていると思われる。事業評価については、ある程度達成できたものと、そうでないものがある。

#### 【委員】

3つの質問と、1つ意見がある。

質問の1つ目は、地域内交通の利用者は、全体的には減っているイメージがあるが、吉部・万倉デマンドバスの利用人数が増えているのは何故か。

質問の2つ目は、中山間地域のタクシー事業者が減っているが、タクシー業界で、ど

のような状況があるのか。市の中心部でもタクシー事業者の統廃合、集約があるようだが、タクシー業界の見通しはどのようなのだろうか。

質問の3つ目は、交通インフラの一つである貸切バス事業の状況はどうか。

4つ目は、意見であるが、網形成計画の事業評価については、実施したか否かの評価では、実施して満足となってしまふ。乗継拠点の設置、ブランディング、利用促進などは、実施した中での課題、気づき、改善すべき点が何かに分かりにくいので、これまでの成果を整理して見える化すると良い。

#### 【委員】

吉部・万倉デマンドバスの予約方法について、現在は前日までの予約が必要だが、平成27年度に予約方法が簡単になり、1時間前までで可能となった。それから利用者が大幅に増えた。タクシーのような状態となり、あまりにも乗務員の負担が多いため、宇部市と協議の上、平成30年度に予約の方法を変えた。それから利用が減ったが、吉部・万倉デマンドバスを周知できていたことが良かったと思う。

#### 【会長】

質問の2つ目、タクシーの現状、今後の見通しについて、事務局で分かることがあればお願いしたい。

#### 【事務局】

北部のタクシー事業者が減っている理由はわからない。

ときわタクシー、スズランタクシー、宇部構内タクシーの営業所が1箇所を集約されている理由、時期についてもこの場ではわからない。

#### 【会長】

北部のタクシー事業者が減っている理由については、後継者がいないためと記憶している。小野地区においては山彦タクシー、二俣瀬地区においては嘉川タクシーが運行していたデマンド交通を、現在は交通局が運行している。

質問の3つ目、貸切バスについて、交通局所管の宇部市営旅客自動車運送事業審議会において、交通局の貸切部門は、経営の足を引っ張ってしまっているという話があったが、貸切バス事業が厳しい状況であるのは間違いない。

委員の質問については、データの的な部分を含めて、次期計画では変えていかないといけないと思うので、事務局には今後把握をして欲しい。

4つ目の意見については、私も同じように思う。資料11、12ページの事業の実施状況と14ページの事業評価の数値結果との橋渡しとなる部分が必要であると思う。例えば、バスの利用者が減っている理由の分析が必要であるということである。また、14ページの数値目標にはない事業もあるので、事業実施状況の結果を生かしていくために何をしなければならないかを、今年度の前半に協議していく必要があると思う。

#### 【委員】

資料14ページで、平成27年度の数字が空欄になっているのは何故か。

**【事務局】**

評価指標の達成度については、毎年度協議会で報告しているが、数字の記載がない箇所は、報告資料の確認ができなかった箇所である。

**【会長】**

平成 27 年度が網形成計画作成の年で、平成 28 年度は地域公共交通再編実施計画を作っていたため、まだ中間評価は行っていなかったためと思われる。

**【委員】**

貸切バスについては、新計画に記載する予定か。

**【事務局】**

具体的には決まっていない。

**【会長】**

交通事業者において、今年度計画を作っていくが、こうした方が良いという意見はないか。

**【委員】**

新型コロナウイルス感染症の影響で利用者の状況が分かりにくい。昨年 2 月から、バスの便数は減らさないで維持しているが、利用者は乗り控えとなった。現在、利用状況は 7 割まで戻っているが、今後も完全に戻ることはないと思われる。その上で計画を作るのはとても難しいと思う。交通局も運転手不足で路線の維持ができず、減便をしている状況である。利用の動向が見えないので、計画を立てるのに苦労すると思う。

**【会長】**

令和 2 年度は利用状況悪かったが、令和 3~4 年度にどうなっていくかを見極めるのは難しい。宇部市営旅客自動車運送事業審議会においては、今後の利用の動向については、ゆるやかに回復していく比較的楽観的なシナリオと、令和 2 年の水準から戻らない悲観的なシナリオでシミュレーションを行った。今年度このタイミングで計画を作らなければならないとなると、例えば、新型コロナワクチン接種が進み、年度の後半から利用状況が回復するなど、色々な可能性を考えなければならない。リスク、不確実性を考えることが計画策定には欠かせないので、事務局にも留意してほしい。

**【委員】**

山口県の宇部市に対する印象は、自動運転の実証実験やグリーンスローモビリティの導入等先進的な取組をしているというものであるが、新たな技術も踏まえた取組も新計画に盛り込むのか。

**【事務局】**

自動運転の実証実験は短期間であり、今後、長期の実証があれば望みたいが、直ちに本格運行は難しい。グリーンスローモビリティは、利用状況が停滞していることもあり、新技術に取り組む項目を計画に挙げる予定であるが、具体的なものは今のところ無い。

**【委員】**

自動運転、グリーンスローモビリティ等の取組を、次につなげていない。宇部市にはスマートシティを目指していくという大きな目標があるが、どのような形で次世代公共交通に繋げていくかを模索している。これまでの取組みについて、全て新計画に盛り込めるかは、現時点では不明である。スマートシティにつなげられる新たな取組があれば、できるだけ新計画に盛り込みたい。

#### 【会長】

計画策定の年度ということで、今日の協議会でこの場を設けたが、委員が言ったように、今年度は計画策定が難しい。これまでは、人口、利用者減少傾向が予想でき、予想通り推移してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の行動パターンが変わった可能性がある。公共交通がどのような役割を果たせるかは、重いテーマであると思う。委員が言ったことは、大事なことであると思うし、今年度、協議会の開催回数が多いのは、ある意味、良い事であると思う。

ここで、新計画の内容についてのポイントは、次のとおりと思っている。

宇部市営旅客自動車運送事業審議会における市長への答申が、近々なされる。乗合事業のあり方についても、ある程度は提言するが、提言の内容を計画に反映するののかしないのか、協議会での議論が必要である。

宇部市の西部においては、3事業者でバスの運行をしている。バスの主要幹線化において、小野田方面への路線についても、3事業者が、可能な範囲での等間隔運行を目指してきたが、昨年の法改正により、制度上は、バス事業者間の共同経営もできるようになった。宇部市以外では、事業者を超えた共同経営を行っている地域もある。この新制度の活用を、どのように考えていくかということである。

北部地域における今後の地域交通のあり方を、もう一度議論する必要があると思う。民間のタクシー事業者による運行が難しくなっている中、小野はきずな号、楠はデマンドバスと、くすのき号がある。地域事情はあるが、全体のありかたについて、議論が必要であると思う。

グリーンスローモビリティの利用状況が芳しくなく、一方、市街地循環線の利用も芳しくない。網形成計画により市街地循環線の導入は実現したが、うまくはっていない。井筒屋がなくなる等、中心市街地の状況が変わってきている中、市街地部の移動手段をどうしていくのかということである。できれば、グリーンスローモビリティもうまく活用したい。例えば、道路管理者や警察から選出された委員がいるので、街路の使い方を含めたあり方についても議論が必要であると思う。

鉄道については、事業評価においては、計画目標を達成できているし、利用者も増えている。JR宇部線利用促進協議会の活躍も大きかったと思う。JR西日本の昨年度の経営状況は悪いと思う。地道に行ってきた努力が飛んでしまったという状況であると思う。この状況の中で、宇部市が鉄道をどう位置付けていくかという議論が必要であり、新計画の中に盛り込むことが必要である。次世代公共交通システム導入に係る4者勉

強会は、休止したと聞いているが、個人的には残念である。新型コロナウイルス感染症の影響で、鉄道の経営状況は厳しいと思うので、新計画に鉄道のことをどう盛り込むかの吟味が必要である。

#### 【委員】

宇部線の利用状況については、新型コロナウイルス感染症の影響が出るまでは、色々な取組により、少し上向きあるいは横這いの状況であった。昨年度の御利用実績はまだ出ていないが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、少なからず前年実績を下回っているのではないかと予測する。

当社は、2020年度の営業損益を約2,600億円と見込んでいる。3月の運輸収入は会社全体で対前年59%。広島支社管内では56%と、非常に低調で厳しい状況である。第3回目の緊急事態宣言の話がある中、GWの予約率は、前々年比較で16%である。緊急事態宣言が発出されれば、この予約率が下がる可能性も予測される。これまでは、海外からの外国人の御利用等による新幹線等の収入で、宇部線、小野田線、山陽本線の運営を補ってきたが、その新幹線等の御利用が低調で厳しいため、これまでどおりの運営が厳しい状況となっている。御利用状況は元に戻らないというのではないかと考えており、事業構造の改革等も実施することとなる。

2020年度のご利用実績は間もなくお伝えすることができると思うが、その実績を見極めつつ、新たな計画の策定においても、検討していきたい。厳しい状況が続くが、宇部線の利用促進も含めて、取り組んでまいりたいと考えている。

また、3月には、ご利用に応じたダイヤの見直しも実施したところである。JR西日本は、インフラの会社であり、移動手段の一つとしての使命を果たすためにも、引き続き、経営の回復に向けて取り組んでいく考えである。

#### 【会長】

バス、タクシーも同様の状況と思う。人口減少によりじわじわと苦しくなっていたものが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一気に来たという感が否めない。とはいえ、その中でも、公共交通を必要としている人は間違いなくいる。まちづくりの中で公共交通が果たすべき役割も間違いなくある。その中で、どうしていくかという重いテーマを持ちながら議論していくこととなると思っている。事務局においても情報収集、情報把握に努めて欲しい。充実した議論ができるよう支援していただきたい。

### 3 その他

#### 【事務局】

今年度策定する計画策については、市だけで作れる計画ではない。また、実のある計画でないという意味がないと思っている。そのためには、市民の意見、運行事業者、道路管理者、関係機関の方にも御協力をいただかないと良い計画はできない。計画の内容については、今年中にはまとめる予定としており、協議会や協議会以外においても、協力を

お願いすることが多々あると思う。